

ID	発症日	場所	報告者名	一休名	動物種別	動物性別	飼育回	畜種	文種	伝染	重症	確認	発症(PT)	出典	概要
													インフルエンザ	ProMED-mail 20090826.2999	2009年8月25日、オーストラリアのQueenslandにある養豚場は、ブタがインフルエンザAに陽性を示し、ブタインフルエンザのアウトブレイクの可能性があるため封鎖され、インフルエンザA(H1N1)の確定検査を実施中である。450頭のうち多くのブタがインフルエンザ様症状を呈しているとの報告後、鼻綿および血液試料は採取された。養豚場は検疫下におかれ、厳重なバイオセキュリティの措置が実施されている。
													インフルエンザ	ProMED-mail 20090820.2951	2009年8月19日、2ヶ所目となるオーストラリアの養豚場がブタインフルエンザウイルス検出により検疫下におかれた。政府当局は、ウイルスが変異し、強毒株となってヒトに伝播するとの心配があるため、ビクトリア州に養豚場の封鎖を命じた。ブタのインフルエンザ感染は、ヒトへの健康に影響を及ぼす問題ではなく、国内外の専門家は、ブタ肉および豚肉製品を食べても安全であると強調している。また、ブタはインフルエンザに罹患した施設の労働者からウイルス感染があったと考えられていると、メディアは報じた。
													インフルエンザ	ProMED-mail 20090808.2812	2009年7月末、カンザス州ライリー郡在住の子供が一般的にはヒトに感染しないブタインフルエンザH3N2ウイルスに感染した。この子供はブタとの直接の接触があった。H3N2ウイルスは北アメリカのブタ間で一般的に流布しており、4月中旬に米国で初めて検出されたブタ由来pandemic H1N1ウイルスとは異なる。KDHEの保健部長は、H3N2ウイルスはpandemic H1N1ウイルスとは関係していない事、およびpandemic H1N1ウイルスの変異や組換えによるウイルスではなく、現時点では、ヒトの健康に脅威を及ぼしてはいないと報告した。子供はインフルエンザ様症状を呈したが、完全に回復し、家族からの病気の報告はなかった。
													インフルエンザ	CDC FluView 2008-2009 Influenza Season Week 34 ending August 29, 2009	米国CDCはweek 34(2009年8月23-29日)における国内インフルエンザ活動は増えている事を報告した。2009年4月中旬から8月30日までにCDCに報告のあった2009インフルエンザA(H1N1)ウイルスと関連した入院数総計9,079例および死亡例593例は、前の週のそれぞれ8,843例および556例から増加した。Week34の期間では、検査されCDCのインフルエンザ部門に報告された1,109例(17.3%)がインフルエンザ陽性であった。また、CDCに報告されたインフルエンザAのすべてのサブタイプのうち、97%が2009インフルエンザA(H1N1)であり、新しいインフルエンザAウイルス感染1例が報告された。更に、1例のインフルエンザに関連した小児の死亡が報告され、2009インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染と関連していた。
													インフルエンザ	CDC FluView Week8 ending 2009 February 29	2009年2月22-28日における米国内インフルエンザの推移状況。インフルエンザA(H1,H3, unsubtype)およびBの感染状況などの報告が述べられており、新規インフルエンザA(H1N1)ウイルスのヒトへの感染例は1例であり、病気のブタとの接触があった。

品名	製造年月	承認番号	製薬会社	有効成分	原料	製造国	有効成分	有害成分	有害成分	有害成分	有害成分	有害成分	概要
													インフルエンザ CDC FluView 2008-2009 Influenza Season Week 34 ending August 29, 2009 90640に同じ
													インフルエンザ N Engl J Med 2009; 360; 2616- 25 90588に同じ
													新型インフル エンザ (H1N1) N Engl J Med 2009; 360; 2605- 2615 90473に同じ
													新型インフル エンザ (H1N1) WHO/EPR 2009 April 24 90589に同じ
233	2009/10/21	90641	沢井製薬	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無		
234	2009/10/22	90642	CSLベーリング	抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病 Vox Sanguinis 2009; 96; 270 90527に同じ	
													新型インフル エンザ (H1N1) FDA/CBER 2009 April 30 90523に同じ
													クロイツフェルト・ヤコブ病 Transfusion 49(5); 977-984 90532に同じ
235	2009/10/22	90643	CSLベーリング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無	新型インフル エンザ (H1N1) FDA/CBER 2009 April 30 90523に同じ	
													クロイツフェルト・ヤコブ病 Transfusion 49(5); 977-984 90532に同じ
236	2009/10/22	90644	CSLベーリング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国	製造工程	無	有	無		
237	2009/10/22	90645	CSLベーリング	フィブリノゲン加第XIII因子 人血液凝固第XIII因子	人血液凝固第XIII因子	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病 Vox Sanguinis 2009; 96; 270 90527に同じ	
													新型インフル エンザ (H1N1) FDA/CBER 2009 April 30 90523に同じ
													クロイツフェルト・ヤコブ病 Transfusion 49(5); 977-984 90532に同じ

ID	登録日	登録号	製造者名	成分名	抽出源	抽出部位	原産国	含有成分	有害成分	有害成分	有害成分	有害成分	感染症(PT)	出典	概要
238	2009/10/22	90646	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 February 17	90498に同じ
													B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90523に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
													パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
239	2009/10/22	90647	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無	無			
240	2009/10/23	90648	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	WHO 2009 June 11	90589に同じ
													HIV	Nature Medicine 2009; 15; 871-872	90636に同じ
241	2009/10/23	90649	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無	無			
242	2009/10/23	90650	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	バクトロブロン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無	無			
243	2009/10/23	90651	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	パンクレアチン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ、カナダ	製造工程	無	無	無	無			
244	2009/10/23	90652	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン第XIII因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	無	マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ

品名	申請日	承認番号	製造者	成分	製剤	原料	製法	有効成分	有害成分	副作用	禁忌	特記事項	出典	概要	
													細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ
245	2009/10/23	90653	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XⅢ因子	人血液凝固第XⅢ因子	ヒト血液	日本	有効成分	無	無	無		マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ
													細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ
246	2009/10/23	90654	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XⅢ因子乾燥濃縮人活性化プロテインCトロンビン	トロンビン	ヒト血液	日本	有効成分製造工程	有	無	無		マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ
													細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一級名	生物由来	原料種	原産国	有効成分	有	無	無	修正情報	感染症(H1N1)	出典	概要
													新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ
247	2009/10/23	90655	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子 乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 人血清アルブミン 乾燥濃縮人血液凝固第VIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	有効成分添加物	有	無	無		マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-232	90498に同じ
													細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
		90655											新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ

ID	登録日	承認番号	製造元	商品名	原料	製造国	製造工程	有	無	無	感染症 (PT)	出典	概要	
248	2009/10/23	90656	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	カナダ、米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
249	2009/10/23	90657	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスマ抗毒素	クックドミート	ブタ胃	米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
250	2009/10/23	90658	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
251	2009/10/23	90659	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌスマ抗毒素	ブイオン	ブタ胃	ニュージーランド、オーストラリア、米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
252	2009/10/23	90660	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	パンクレアチン	ブタ臓臓	カナダ、イタリア、米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
253	2009/10/23	90661	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アボセルロプラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ

ID	登録日	登録番号	製剤名	原料名	製造会社	製造国	製造工程	無菌	無菌	無菌	無菌	出典	概要
254	2009/10/23	90662	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼI	ウシ臍臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無		
255	2009/10/23	90663	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥ポツリヌスウイルス毒素 ウロキナーゼ	リボヌクレアーゼA	ウシ臍臓	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無		
256	2009/10/23	90664	わかもと製薬	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無		
												結核	N Engl J Med 2009; 360: 2393-2395 2009年3月24日(世界結核デー)に公表されたWHOの第13回結核年次報告書によると、2006年と比べて2007年では結核感染者総数は減少しており、人口当りの感染者数も減少しているが、22カ国が世界の80%の結核感染を占め、2007年には多剤耐性(MDR)の結核例は500,000例報告されており、2008年末までに55カ国から広範囲薬剤耐性(XDR)結核例の報告があった。感染者の多い地域では、MDRの割合は1-14%であり、そのうちXDRの割合は21%程度である。結核は貧困地域での疾病であるが、財政難や失策により保健システムが機能していないために対処できない地域もある。DOTS(directly observed problem)が実施されず、単剤投与やノンコンプライアンスが見過ごされると、イソニアジド耐性菌が現れ、次いでリファンピシン耐性菌が増加する。MDR結核菌は他の薬剤にも急速に耐性を獲得し、阻止できない。また、個別治療は複数剤投与を最適化し、更なる耐性獲得を制限できるが、検査や診断する資力が限られているため、画一的な方法を余儀なくされ、更にMDR結核菌に不適切な投与を行う事となる。
												新型インフルエンザ(H1N1)	ProMED-mail 20090723.2391 2009年7月2日現在、日本でタミフル耐性を示す新型H1N1インフルエンザの遺伝子的変異株を初めて確認した。厚生労働省は患者のタミフル感受性は検査済みであると報告した。この患者は、2009年5月に新型インフルエンザ感染の確認がなされ、回復しており、年齢および性別は不明である。なお、世界で最初にタミフル耐性が認められたのは、デンマークであった。
												髄膜炎菌性髄膜炎	ProMED-mail 20090723.2426 2009年7月3日、インドMeghalayaでは2008年以降総計257人がmeningococcal meningitis(髄膜炎菌性髄膜炎)の疑いで死亡したと、州当局は発表した。2008年には130人(うち確定10例)が死亡し、2009年にはこれまでに127人(うち確定4例)が死亡している。政府当局は、これまでに2000例以上の報告が州からなされているが、状況は統制下において防衛策は実施していると述べ、約1億のワクチンをWHOから調達しており、感染のあった3つの地域で無料のワクチン接種を計画している。また、大規模な啓蒙活動に着手しており、予防薬は無料で配られている。

ID	発症日	発症地	報告者	報告先	検査項目	検査結果	国名	添加物	有	有	無	感染症 (PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090722.2599	WHOに報告のあった各国のインフルエンザパンデミック (H1N1)2009の感染者数の更新情報である。2009年5月1日-7月6日にWHOに報告のあった累積症例数(および死亡例があった場合は死亡数)および2009年7月21日現在、ECDC(European Centre for Disease Prevention and Control)によってまとめられた累積症例数を国別に示した集計表が発表され、日本における2009年7月21日現在の累積数は4275症例であり、死亡例はなかった。
												ペスト	WHO 2009 August 11	2009年8月1日、中国当局はQinghai州の辺境の町Ziketianにおける肺ペストのアウトブレイクを報告した。1例目は32歳牛飼いの男性で7月26日に発熱と吐血を発症し、病院搬送中に亡くなり、翌日葬られた。7月30日、接触のあった関係者11人が発熱および咳で入院し、8月1日には、1例目を含めた12例全員がペスト菌陽性であった。翌日、初発症例の64歳の義父と37歳近隣男性も死亡した。残り9例中、1例は重症、もう1例は発熱および咳の急性症状を呈し、7例は、安定している。8月6日、地方の保険局は接触のあった332人を医療観察のため隔離し、交通規制を実施した。疫学調査から、このアウトブレイクの感染源は野生マーマットであり、初発症例の飼い犬と接触があった。この地方では野生の肺ペストが動物間に流行しており、耐性菌は存在しないことから、この3死亡例は対処の遅れによる。
257	2009/10/23	90665	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	デング熱	ProMED-mail 20090608.2121	2009年の1月から5月22日までの、ブラジルバイーア州における古典的デング熱症例数は82402例に達し、2008年同時期(28432例)と比べて220%増加している。確定死亡例は55例であった。
												ペスト	ProMED-mail 20090612.2177	2009年6月11日、People's Daily(人民日報)はモンゴルのBayan-Olgii州在住の14歳の子供が2009年5月29日にマーマットを食べた後、ペストに罹患したと報じた。症状は2009年6月2日に現れた。
												デング熱	ProMED-mail 20090614.2211	2009年6月14日、デング熱のアウトブレイクがタイのMae Hong Son地域で懸念されており、2008年より更に深刻であると予測された。同地域公衆衛生局の専門医は、デング熱が地域医療機関にとって2008年よりも更に大きな問題となる事を示す情報を発表した。2009年の今日までに約155例のデング熱症例が報告されたが、2008年と比較すると、既に2倍増加している。アウトブレイクを防ぐために、蚊よけの使用や蚊帳での就寝および花瓶の水は毎週取り替える事などを提言した。

ID	受理日	番号	報告者名	一 般 名	生 物 種 名	原 材 料 名	原 産 国	検 査 区 分	検 査 種 別	検 査 機 関	検 査 日 付	検 査 結 果	感 染 症 (PT)	出 典	概 要
													マラリア	ProMED-mail 20090621.2278	<p>インドネシアのKalimantanで検出されたPlasmodium knowlesi (二日熱マラリア)の初症例である。22試料はKalimantan在住の重症だが合併症のないマラリア患者(4例)から採取され、すべての試料はP.falciparumもしくはp.vivaxとの合併マラリア感染と診断された。これらはドイツの研究所に運ばれ、4つのヒト病原種およびP.knowlesiについてrRNA遺伝子のスモールサブユニットを増幅する分子生物学的方法により同定を行った。その結果、4例は、P.vivaxとの混合マラリアであったが、P.knowlesiに陽性を示した。自然宿主の分布と東南アジアでの症例から、インドネシアの他の地域や島でも検出される可能性がある。サルマリアのヒトへの自然感染はまれであると考えられていたが、P.knowlesiのヒト感染はアジアにおいて予測されているよりも多いと思われる。2002年にマレーシアで、非典型症状のP.malariaeが増加したが、nested PCRの結果これらのマラリア症例の50%以上がP.knowlesiであった。また、2001-2006年の後ろ向き調査の結果、マレーシアボルネオのSarawakでは、患者試料の28%でP.knowlesiが確認され、P.malariae感染によるとされた異常死亡4例からP.knowlesiが検出された。</p>
													デング熱	ProMED-mail 20090706.2425	<p>2009年7月1日、カンボジアの保健省はデング熱が小児にとって深刻な問題となっており、症例の多くが小児である事を発表した。2009年にはこれまでにデング熱に感染した3333人の小児が治療を受け、10例が死亡している。2008年には感染した小児は1811例および死亡例は23例に留まっており、罹患数は著しく増加している。</p>
													デング熱	ProMED-mail 20090706.2425	<p>マレーシアではデング熱に立ち向かい、制御する活動への地域の参加レベルは低く、2009年6月21-27日における2009年ベクターコントロール活動も全部を実施できなかった。2009年7月3日、保健局は、この同時期におけるデング熱症例は749例、死亡は2例であり、デング症例が著しく増加した5つの州を公表した。また、2009年のデング熱症例総数24,534例および死亡総数62例であり、2008年の同時期にはそれぞれ20,721および45であった。</p>
		90665											チクングニヤウイルス感染	CDC 2009 August 17	90550に同じ